

夏休みが終わり、今日から2学期が始まります。こうしてみなさんの元気な姿を見ることができて大変嬉しく思います。夏休み中も補習や部活動で、ほとんど学校に来ていたという人も多いかもしれませんね。しかし、いつもよりは自分の時間がとれたと思います。充実した時間を過ごすことができましたか。3年生にとっては、いよいよ進路目標の実現に向けて大切な時です。就職を考えている人は、履歴書の作成、面接の練習など本番の試験に向けての準備をしっかりと取り組んでください。進学を考えている人は、この夏休み中にオープンキャンパスに参加したり、学校案内等の資料を取り寄せたりして、具体的な受験校を決めつつあると思います。日々の授業を大切に、自分の第一志望校合格を目指してください。2年生、1年生のみなさんにとっては、今の3年生の先輩たちの姿は、1年後、2年後のみなさんの姿です。まだまだ先の話だと思っているかもしれませんが、時間はあっという間に過ぎていきます。今やるべきこと、今できることにしっかりと取り組んでください。

さて、今回は「**ジョハリの窓**」を紹介します。「ジョハリの窓」とは、サンフランシスコ州立大学の心理学者ジョセフ・ルフト（Joseph Luft）とハリー・インガム（Harry Ingham）が発表した「対人関係における気づきのグラフモデル」という心理学のモデルを指します。ジョハリ（Johari）は提案した2人の名前を組み合わせたものです。

このモデルには、図のような4つの「窓」があります。第1の**開放の窓**は、「公開された自分」、

	自分は知っている	自分は知らない
他人は知っている	開放の窓 (open self)	盲点の窓 (blind self)
他人は知らない	秘密の窓 (hidden self)	未知の窓 (unknown self)

第2の**盲点の窓**は、「自分は気がついていないが、他人からは見えている自分」、第3の**秘密の窓**は、「自分では気がついていないが、他人には隠している自分」、第4の**未知の窓**は、「誰からもまだ知られていない自分」です。4つの窓のうち、第2の窓と第3の窓が明らかになっていくことで、この2つの窓が狭まっていき、第1の窓が広がっていきます。その結果、「未知なる自分」との出会いである

第4の窓が開くこととなります。「未知なる自分」とは、簡単に言うと「自分にはこんな一面もあったんだ」ということです。自分の中に隠れている才能、可能性と考えてもいいと思います。自分ひとりでは第4の窓を開くことは容易ではなく、第2の窓、第3の窓を開くために、自分自身が心を開いて、他人とのコミュニケーションを図ることが大切です。周囲とのコミュニケーション、自分と他人との関係性が重要です。他人から指摘してもらいやすい状況を作っていけば、自分では気がついていない自分を知ることができます。自分が理解している自分と、他人が理解している自分との関係性を考えることで、より円滑なコミュニケーションを他人との間で取ることができ、その結果、自分の成長につながります。

コミュニケーションが成立するには、お互いがリスペクトし合う関係、双方が認め合う関係が必要です。まず聞く人がいないとコミュニケーションは成立しません。コミュニケーションの主体は情報の発信者ではなく、情報の受信者です。とかく相手に「伝える」ことに注意が向きがちですが、相手にきちんと「**達する**」ことができるかが重要です。「**伝達**」という言葉は「伝えて達する」ということです。コミュニケーション力とは、相手に**達する**ように伝える力と同時に相手の話をきちんと**聴く**力でもあります。

今回は、グランドデザインの「4つのC」のうち、「**Communication(対話)**」の重要性についてお話をしました。